



27 古代応募兵図 印藤真楯

明治二十三年(一八九〇)

油彩・カンヴァス

七七・六×六一・五

本図は、明治二十三年の第三回内国勸業博覧会に出品され、褒状受賞とともに、宮内省買上となった作品である。画面の中央に、家長と思われる刀を手にした壮年の男が描かれ、それを家族が取り巻いている。彼らの悲壮な顔つきから、男がこれより戦に向かうところであることが分かり、フォンタネージの影響がうかがえる暗褐色の色調によって、その悲哀に満ちた雰囲気が見る者に迫ってくる。また幼子達や男の両親の視線を、男の顔に集中させる手法によって、鑑賞者の目を自然と画面の主役へと導く効果が生まれている。[M.Indo. Tokio Japan. / 2550.]のサインが入られている。

印藤真楯(一八六〇—一九一四)は、はじめ明治五年に川上冬崖の聴香読画館に入門し、同九年に工部美術学校が開設すると同時に入学して、イタリア人画家フォンタネージのもとで絵を学んだ。しかしフォンタネージが退職すると、後任の教師フレッティに不満を抱き、印藤は浅井忠や小山正太郎、松岡寿らと共に退学し、自ら十一会を結成した。さらに明治十三年には私塾・丹青舎をひらき、後進の育成にも尽力した。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に<sup>1</sup>出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

## 近代の洋画家、創作の眼差し

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 52

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年十月三十日発行

© 2010, The Museum of the Imperial Collections